

青野川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～ 「湯けむりの里の水辺」の川づくりとして南伊豆町の観光中心部を水害から守る流域治水対策～

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、青野川水系においても、事前防災対策を進める必要がある。
- 青野川流域は、中下流域の河川沿いに住宅地や観光資源が集中するなど、洪水や津波の浸水被害のリスクが高いことから、河川改修、水門の施設修繕の実施や青野大師ダムでは、事前放流による洪水調節機能の強化を図る。
- これらの取組により、県管理区間においては、昭和51年7月の洪水(年超過確率1/20規模の降雨)に対して、再度災害の防止を目的とすることに加え、想定される津波からの被害の防止又は軽減を図る。
- 加えて、あらゆる関係者が連携し、水災害リスク情報空白域の解消や各種ハザードマップの作成・周知等、ソフト対策と合わせて流域一体となって激甚化する水害や想定される津波に対し、被害の軽減を図る。



位置図



●氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・ 青野大師ダムの洪水調節機能の強化(事前放流)
- ・ 河川改修(河道掘削、護岸整備)、水門施設修繕
- ・ 砂防施設等の整備、森林整備・治山事業
- ・ ほ場整備に伴う排水路の改修

等

●被害対象を減少させるための対策

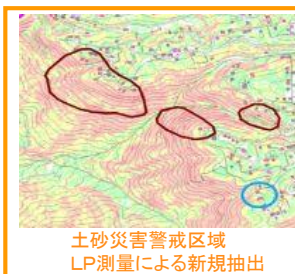
- ・ 土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制
- ・ 水災害リスク情報空白域の解消(土砂災害警戒区域 LP測量による新規抽出)

等

●被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・ 水災害リスク情報空白域の解消(洪水浸水想定区域図の作成・ハザードマップの作成・土砂災害警戒区域標識等の設置)
- ・ サイボスレーダーによる水位の観測情報等の提供
- ・ ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組(出前講座、防災訓練、マイ・タイムラインの推進等)
- ・ 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保

等



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

青野川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ・効果】

～「湯けむりの里の水辺」の川づくりとして南伊豆町の観光中心部を水害から守る流域治水対策～

- 青野川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、県、町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】河川整備計画に基づき、河道掘削や護岸改修などの河川改修を実施するとともに、水災害リスク情報空白域の解消のため、洪水浸水想定区域図の作成及びハザードマップの作成・周知を進める。
 - 【中期】河川改修を継続的に実施し、治水安全度の確保を図るとともに、水災害リスク情報空白域の解消など、ソフト対策を継続的に実施する。
 - 【中長期】流下能力向上のために河道改修を継続的に実施する。併せて、町と連携したハザードマップの周知及び住民への水害や土砂災害リスクに対する理解促進などソフト対策による短期からの継続的な取組により、流域全体の防災意識の向上を図る。

■事業規模

・河川対策

全体事業費 約4.7億円 ※1
対策内容 河川改修 等

※1：整備計画の残事業費を記載

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	治水協定に基づくダムの洪水調節機能の強化（事前放流）	静岡県			
	河川改修（河道掘削、護岸整備） 水門の施設修繕	静岡県			
	砂防施設等の整備、森林整備・治山事業	静岡県 南伊豆町 森林整備センター			
	ほ場整備に伴う排水路の改修	静岡県 南伊豆町			
被害対象を減少させるための対策	土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制	静岡県 南伊豆町			
	水災害リスク情報空白域の解消（土砂災害警戒区域 LP測量による新規抽出）	静岡県			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報空白域の解消（洪水浸水想定区域図の作成・ハザードマップの作成・土砂災害警戒区域標識等の設置）	静岡県 南伊豆町	洪水浸水想定区域図の作成	土砂災害警戒区域標識等の設置	
	ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組	静岡県 南伊豆町			
	サイボスレーダーによる水位の観測情報等の提供	静岡県 南伊豆町			
	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保	静岡県 南伊豆町			

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

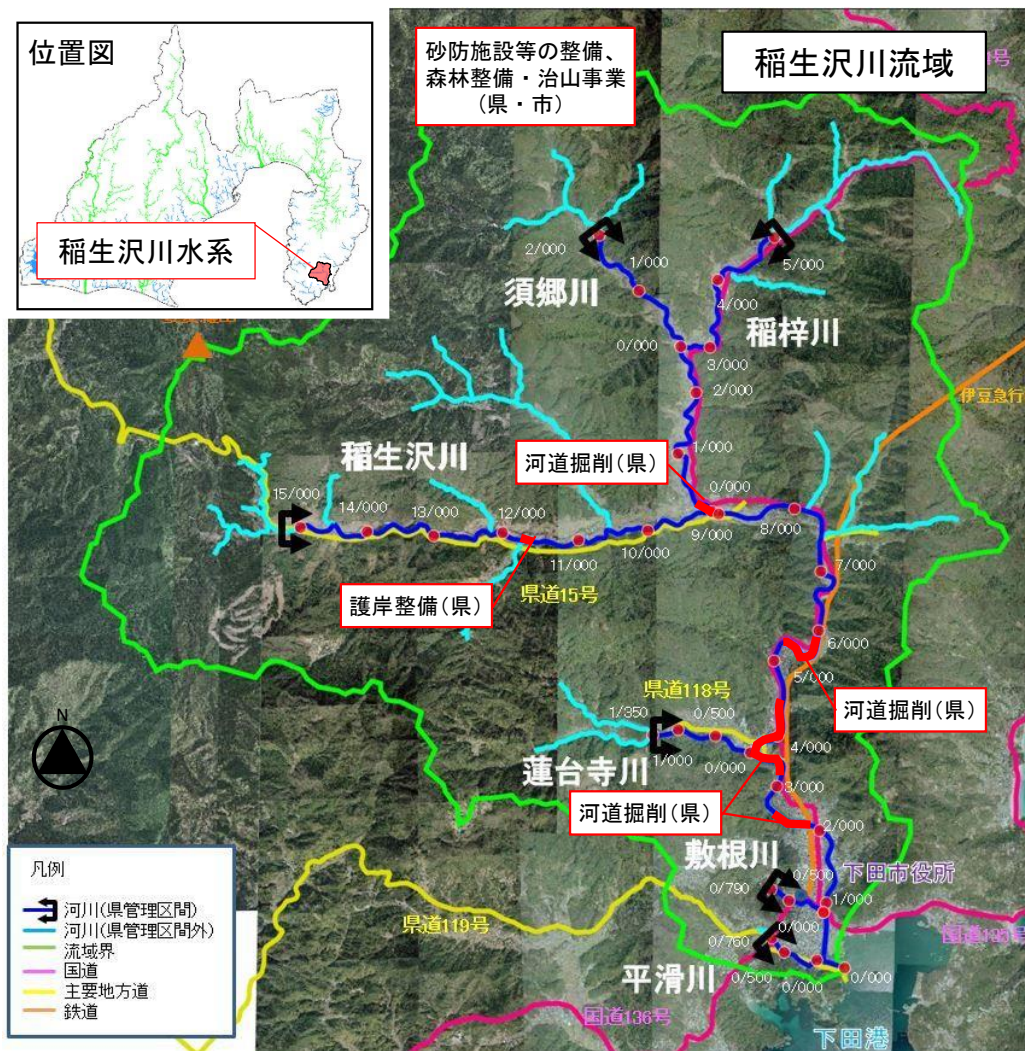
※【短期】概ね5年 【中期】概ね10年目まで 【中長期】概ね11年目以降

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

稲生沢川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～開国の歴史に彩られた下田の観光まちづくりと調和を図りつつ、誰もが安全で安心して暮らせる流域治水対策～

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生しており、稲生沢川水系においても、平成3年9月豪雨で浸水被害が発生するなど、事前防災対策を進める必要がある。
- 稲生沢川流域は、下流域の市街化の進展により洪水による浸水被害のリスクが高いことから、河川改修を実施する。
- これらの取組により、県管理区間においては、年超過確率 1/5 規模の降雨による洪水を安全に流下させ、浸水被害の防止又は軽減を図る。
- 加えて、あらゆる関係者が連携し、水災害リスク情報空白域の解消や、ハザードマップの作成・周知等、ソフト対策と合わせて流域一体となって激甚化する水害に対し、被害の軽減を図る。



●氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河川改修（河道掘削・護岸整備）
- ・砂防施設等の整備、森林整備・治山事業

等

●被害対象を減少させるための対策

- ・立地適正化計画による浸水リスクを考慮したまちづくりの推進（立地適正化計画に基づく防災指針の作成）
- ・土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制
- ・水災害リスク情報空白域の解消（土砂災害警戒区域 LP測量による新規抽出）

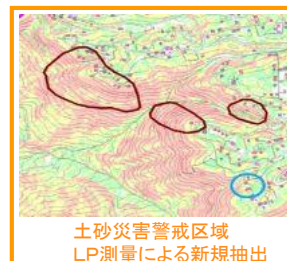
等



●被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・水災害リスク情報空白域の解消（洪水浸水想定区域図の作成・ハザードマップの作成・土砂災害警戒区域標識等の設置）
- ・サイボスレーダーによる水位の観測情報等の提供
- ・ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組（出前講座、避難訓練、マイ・タイムラインの推進等）
- ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保

等



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

稲生沢川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ・効果】

～開国の歴史に彩られた下田の観光まちづくりと調和を図りつつ、誰もが安全で安心して暮らせる流域治水対策～

- 稲生沢川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、県、市が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】市街地における浸水被害の軽減のために、河道掘削などの河川改修を実施するとともに、水災害リスク情報空白域の解消のため、洪水浸水想定区域図の作成及びハザードマップの作成・周知を進める。
 - 【中期】河川改修を継続的に実施し、治水安全度の確保を図るとともに、水災害リスク情報空白域を解消するための取組等、ソフト対策を継続的に実施する。
 - 【中長期】流下能力向上のために河道改修を継続的に実施する。併せて、市と連携したハザードマップ周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組などソフト対策による短期からの継続的な取組により、流域住民全体の防災意識の向上を図る。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川改修（河道掘削、護岸整備）	静岡県			
	砂防施設等の整備、森林整備・治山事業	静岡県 下田市 森林整備センター			
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画による浸水リスクを考慮したまちづくりの推進（立地適正化計画に基づく防災指針の作成）	下田市			
	土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制	静岡県 下田市			
	水災害リスク情報空白域の解消（土砂災害警戒区域 LP測量による新規抽出）	静岡県			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報空白域の解消洪水浸水想定区域図の作成・ハザードマップの作成・土砂災害警戒区域標識等の設置	静岡県 下田市			
	ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組	静岡県 下田市			
	サイポスレーダーによる水位の観測情報等の提供	静岡県 下田市			
	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保	静岡県 下田市			

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

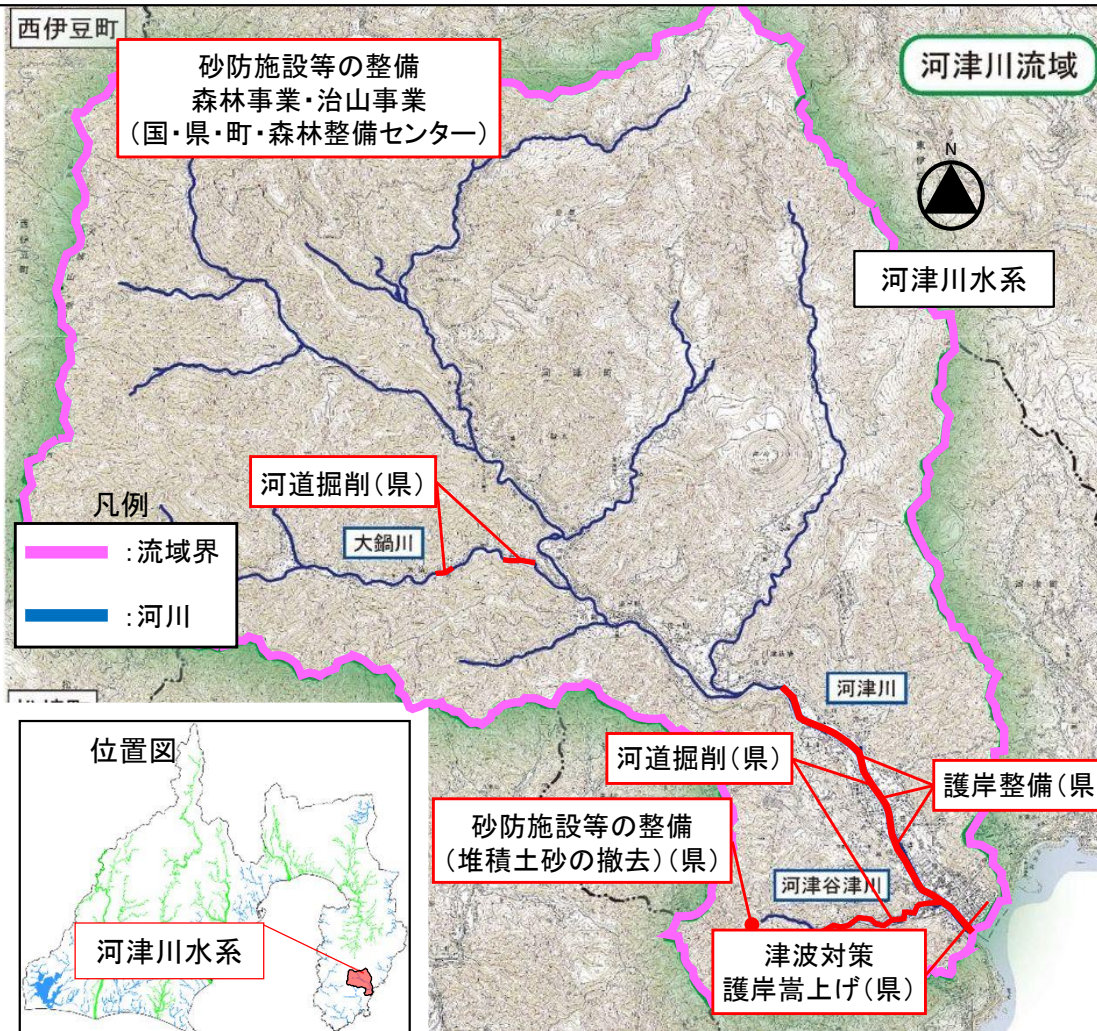
※【短期】概ね5年 【中期】概ね10年目まで 【中長期】概ね11年目以降

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

河津川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～ 「人々が安全かつ安心に暮らせる川づくり」 による河津桜のまち河津町の観光中心部を水害から守る流域治水対策～

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、河津川水系においても、事前防災対策を進める必要がある。
- 河津川流域は、下流部の河川沿いにおける市街化の進展などにより洪水や津波による浸水被害のリスクが高いことから、河川改修及び津波対策を実施する。
- これらの取組により、県管理区間においては、年超過確率 1/10 規模の降雨による洪水を安全に流下させることに加え、想定される津波からの被害の防止、または軽減を図る。
- 加えて、あらゆる関係者が連携し、水災害リスク情報空白域の解消や各種ハザードマップの作成・周知等、ソフト対策と合わせて流域一体となって激甚化する水害に対し、被害の軽減を図る。



● 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・ 河川改修（河道掘削、護岸整備）、津波対策（護岸嵩上げ）
- ・ 砂防施設等の整備、森林整備・治山事業

等

● 被害対象を減少させるための対策

- ・ 土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制
- ・ 水災害リスク情報空白域の解消（土砂災害警戒区域 LP測量による新規抽出）

等

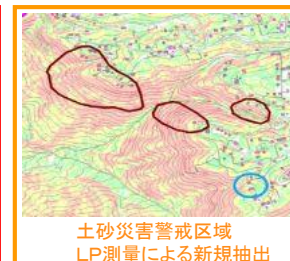
● 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・ 水災害リスク情報空白域の解消（洪水浸水想定区域図の作成・ハザードマップの作成・土砂災害警戒区域標識等の設置）
- ・ サイボスレーダーによる水位の観測情報等の提供
- ・ ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組（出前講座、防災訓練、マイ・タイムラインの推進等）
- ・ 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保

等



河道掘削



土砂災害警戒区域
LP測量による新規抽出



出前講座

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

河津川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ・効果】

～ 「人々が安全かつ安心に暮らせる川づくり」 による河津桜のまち河津町の観光中心部を水害から守る流域治水対策～

- 河津川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、県、町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
【短期】 市街地における浸水被害の軽減のために、河道掘削などの河川改修を実施するとともに、水災害リスク情報空白域の解消のため、洪水浸水想定区域図の作成及びハザードマップの作成・周知を進める。
【中期】 河川改修を継続的に実施し、治水安全度の確保を図るとともに、水災害リスク情報空白域の解消など、ソフト対策を継続的に実施する。
【中長期】 流下能力向上のために河川改修を継続的に実施する。併せて、町と連携したハザードマップの周知及び住民への水害や土砂災害リスクに対する理解促進などソフト対策による短期からの継続的な取組により、流域全体の防災意識の向上を図る。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川改修（河道掘削）	静岡県	→		
	砂防施設等の整備、森林整備・治山事業	国・静岡県 河津町 森林整備センター	→		
被害対象を減少させるための対策	土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制	静岡県 河津町	→		
	水災害リスク情報空白域の解消（土砂災害警戒区域 LP測量による新規抽出）	静岡県	→		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報空白域の解消（洪水浸水想定区域図の作成・ハザードマップの作成・土砂災害警戒区域標識等の設置）	静岡県 河津町	→		
	ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組	静岡県 河津町	→		
	サイボスレーダーによる水位の観測情報等の提供	静岡県 河津町	→		
	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保	静岡県 河津町	→		

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

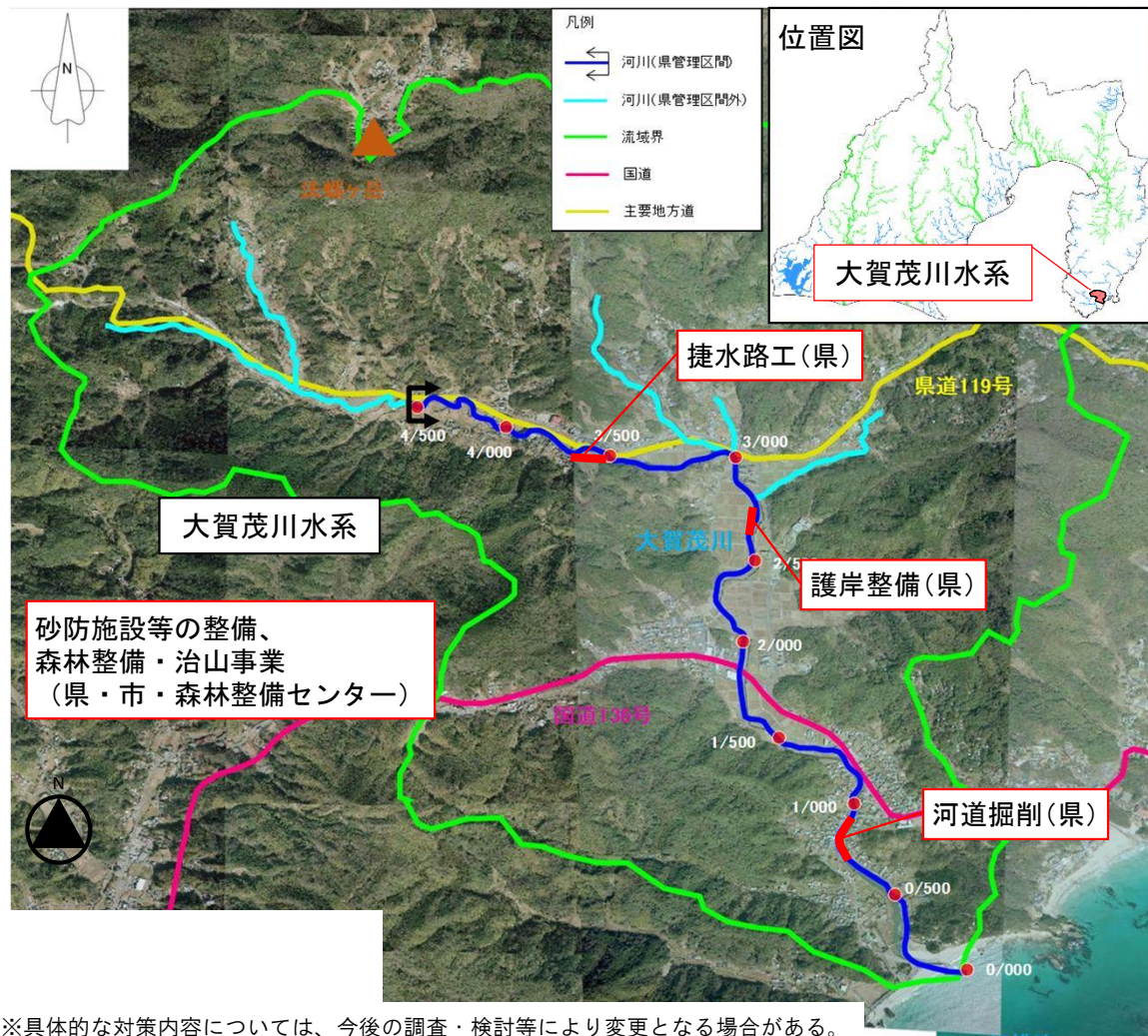
※【短期】概ね5年 【中期】概ね10年目まで 【中長期】概ね11年目以降

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

大賀茂川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～豊かな水辺環境との調和を図りつつ、災害に強く安全で安心して暮らせる川づくり、来訪者をもてなす流域治水対策～

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、大賀茂川水系においても、事前防災対策を進める必要がある。
- 大賀茂川流域は、中下流部の河川沿いに住宅地や観光資源が集中するなど、洪水による浸水被害のリスクが高いことから、河川改修を実施する。
- これらの取組により、県管理区間においては、年超過確率 1/5 規模の降雨による洪水を安全に流下させ、浸水被害の防止又は軽減を図る。
- 加えて、あらゆる関係者が連携し、水災害リスク情報空白域の解消や各種ハザードマップの作成・周知等、ソフト対策と合わせて流域一体となって激甚化する水害に対し、被害の軽減を図る。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

● 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・ 河川改修（河道掘削・護岸整備・捷水路工）
- ・ 砂防施設等の整備、森林整備・治山事業

等

● 被害対象を減少させるための対策

- ・ 立地適正化計画による浸水リスクを考慮したまちづくりの推進（立地適正化計画に基づく防災指針の作成）
- ・ 土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制
- ・ 水災害リスク情報空白域の解消（土砂災害警戒区域 LP測量による新規抽出）等

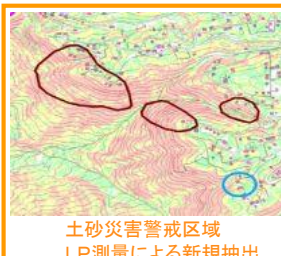
● 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・ 水災害リスク情報空白域の解消（洪水浸水想定区域図の作成・ハザードマップの作成・土砂災害警戒区域標識等の設置）
- ・ サイボスレーダーによる水位の観測情報等の提供
- ・ ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組（出前講座、避難訓練、マイ・タイムラインの推進等）
- ・ 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保 等

捷水路工



護岸整備



土砂災害警戒区域
LP測量による新規抽出

出前講座

大賀茂川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ・効果】

～豊かな水辺環境との調和を図りつつ、災害に強く安全で安心して暮らせる川づくり、来訪者をもてなす流域治水対策～

- 大賀茂川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、県、市が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
- 【短期】 市街地における浸水被害の軽減のために、護岸整備などの河川改修を実施するとともに、水災害リスク情報空白域の解消のため、洪水浸水想定区域図の作成及びハザードマップの作成・周知を進める。
- 【中期】 河川改修を継続的に実施し、治水安全度の確保を図るとともに、水災害リスク情報空白域の解消など、ソフト対策を継続的に実施する。
- 【中長期】 流下能力向上のための河川改修を継続的に実施する。併せて、市と連携したハザードマップの周知及び住民への水害や土砂災害リスクに対する理解促進などソフト対策による短期からの継続的な取組により、流域住民全体の防災意識の向上を図る。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川改修（河道掘削・護岸整備・捷水路工）	静岡県			
	砂防施設等の整備、森林整備・治山事業	静岡県 下田市 森林整備センター			
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画による浸水リスクを考慮したまちづくりの推進（立地適正化計画に基づく防災指針の作成）	下田市			
	土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制	静岡県 下田市			
	水災害リスク情報空白域の解消（土砂災害警戒区域 LP測量による新規抽出）	静岡県			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報空白域の解消（洪水浸水想定区域図の作成・ハザードマップの作成・土砂災害警戒区域標識等の設置）	静岡県 下田市			
	ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組	静岡県 下田市			
	サイポスレーダーによる水位の観測情報等の提供	静岡県 下田市			
	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保	静岡県 下田市			

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

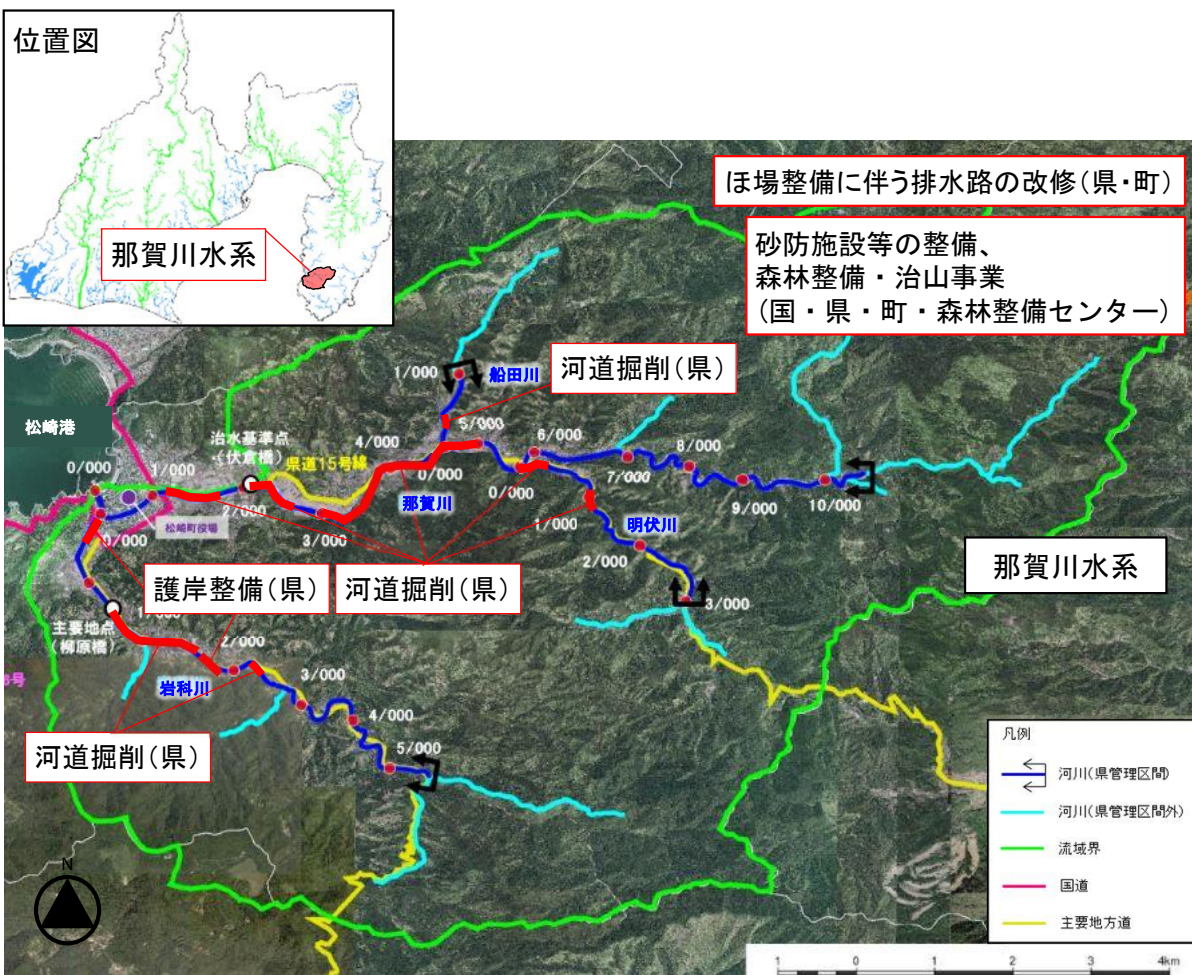
※【短期】概ね5年 【中期】概ね10年目まで 【中長期】概ね11年目以降

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

那賀川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～松崎の歴史・風土と地域資源を活かしながら、災害に強く、住む人にも訪れる人にも安全で安心な流域治水対策～

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、那賀川水系においても、事前防災対策を進める必要がある。
- 那賀川流域は、下流部の河川沿いに住宅地が集中しており、洪水による浸水被害のリスクが高いことから、河川改修を実施する。
- これらの取組により、県管理区間においては、年超過確率 1/5 規模の降雨による洪水を安全に流下させ、浸水被害の防止又は軽減を図る。
- 加えて、あらゆる関係者が連携し、水災害リスク情報空白域の解消や各種ハザードマップの作成・周知等、ソフト対策と合わせて流域一体となって激甚化する水害に対し、被害の軽減を図る。



●氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・ 河川改修（河道掘削・護岸整備）
- ・ 砂防施設等の整備、森林整備・治山事業
- ・ ほ場整備に伴う排水路の改修

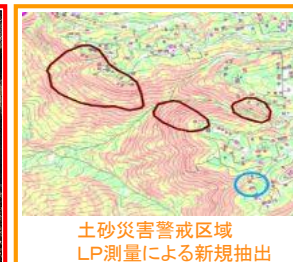
等

●被害対象を減少させるための対策

- ・ 土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制
- ・ 水災害リスク情報空白域の解消（土砂災害警戒区域 LP測量による新規抽出）等

●被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・ 水災害リスク情報空白域の解消（洪水浸水想定区域図の作成・ハザードマップの作成・土砂災害警戒区域標識等の設置）
- ・ サイボスレーダーによる水位の観測情報等の提供
- ・ ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組（出前講座、避難訓練、マイ・タイムラインの推進等）
- ・ 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保 等



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

那賀川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ・効果】

～松崎の歴史・風土と地域資源を活かしながら、災害に強く、住む人にも訪れる人にも安全で安心な流域治水対策～

● 那賀川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、県、町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】 市街地における浸水被害の軽減のために、護岸整備などの河川改修に着手するとともに、水災害リスク情報空白域の解消のため、洪水浸水想定区域図の作成及びハザードマップの作成・周知を進める。

【中期】 河川改修を継続的に実施し、治水安全度の確保を図るとともに、水災害リスク情報空白域の解消など、ソフト対策を継続的に実施する。

【中長期】 流下能力向上のための河川改修を継続的に実施する。併せて、町と連携したハザードマップの周知及び住民への水害や土砂災害リスクに対する理解促進などソフト対策による短期からの継続的な取組により、流域全体の防災意識の向上を図る。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川改修（河道掘削・護岸整備）	静岡県			
	砂防施設等の整備、森林整備・治山事業	国・静岡県 松崎町 森林整備センター			
	ほ場整備に伴う排水路の改修	静岡県 松崎町			
被害対象を減少させるための対策	土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制	静岡県 松崎町			
	水災害リスク情報空白域の解消（土砂災害警戒区域 LP測量による新規抽出）	静岡県			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報空白域の解消（洪水浸水想定区域図の作成・ハザードマップの作成・土砂災害警戒区域標識等の設置）	静岡県 松崎町			
	ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組	静岡県 松崎町			
	サイボスレーダーによる水位の観測情報等の提供	静岡県 松崎町			
	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保	静岡県 松崎町			

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

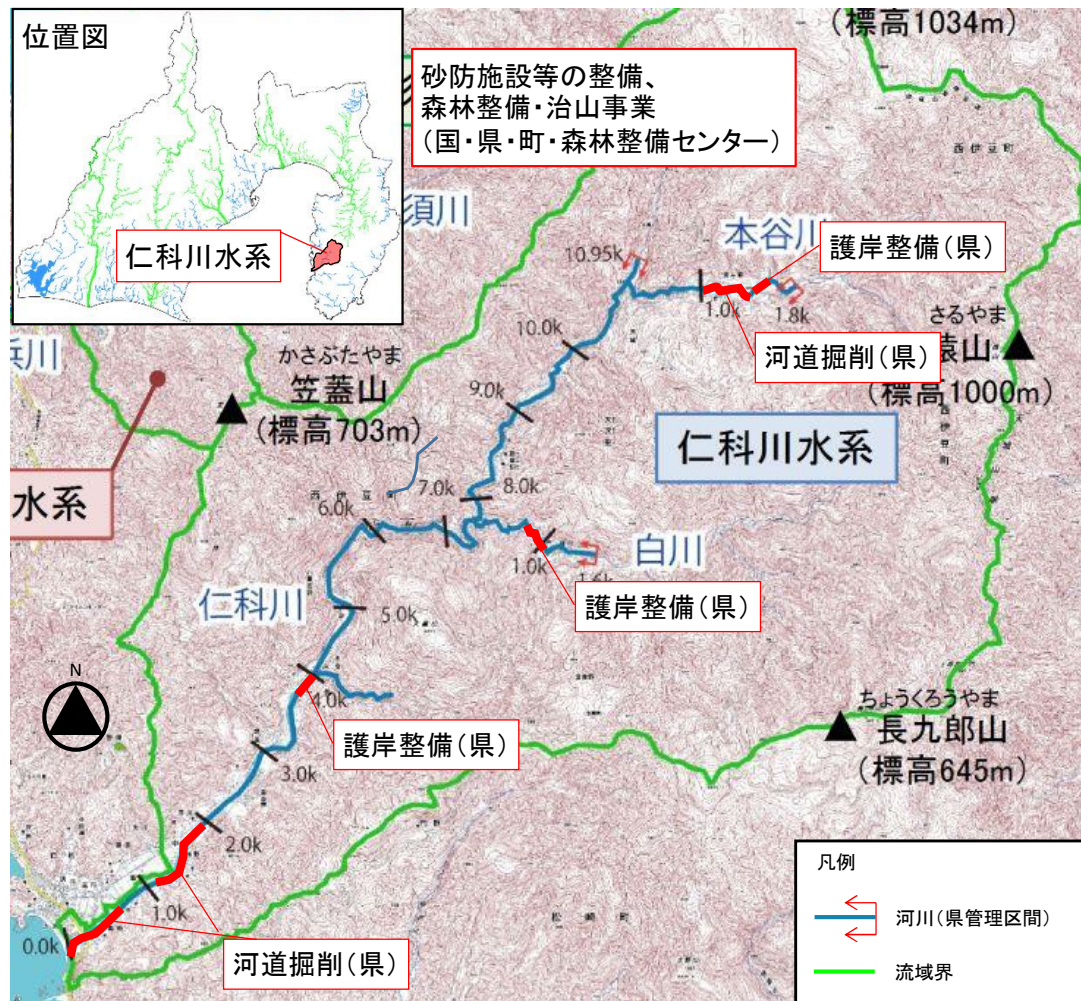
※【短期】概ね5年 【中期】概ね10年目まで 【中長期】概ね11年目以降

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

仁科川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～地域で育まれてきた川と人々との関わりが今後も引き継がれ、魅力ある地域形成に資する水辺環境の保全に取り組む流域治水対策～

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、仁科川水系においても、事前防災対策を進める必要がある。
- 仁科川流域は、下流部の河川沿いに住宅地が集中しており、洪水による浸水被害のリスクが高いことから、河川改修を実施する。
- これらの取組により、県管理区間においては、年超過確率 1/5 規模の降雨による洪水を安全に流下させ、浸水被害の防止又は軽減を図る。
- 加えて、あらゆる関係者が連携し、水災害リスク情報空白域の解消や、各種ハザードマップの作成・周知等、ソフト対策と合わせて流域一体となって激甚化する水害に対し、被害の軽減を図る。



●氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・ 河川改修（河道掘削・護岸整備）
- ・ 砂防施設等の整備、森林整備・治山事業

等

●被害対象を減少させるための対策

- ・ 土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制
- ・ 水災害リスク情報空白域の解消（土砂災害警戒区域 LP測量による新規抽出）

等

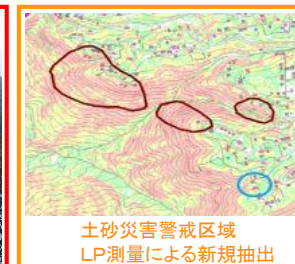
●被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・ 水災害リスク情報空白域の解消（洪水浸水想定区域図の作成・ハザードマップの作成・土砂災害警戒区域標識等の設置）
- ・ サイボスレーダーによる水位の観測情報等の提供
- ・ ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組（出前講座、避難訓練、マイ・タイムラインの推進等）
- ・ 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保

等



河道掘削



土砂災害警戒区域
LP測量による新規抽出



出前講座

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

仁科川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ・効果】

～地域で育まれてきた川と人々との関わりが今後も引き継がれ、魅力ある地域形成に資する水辺環境の保全に取り組む流域治水対策～

- 仁科川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、県、町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】 市街地における浸水被害の軽減のために、護岸整備などの河川改修に着手するとともに、水災害リスク情報空白域の解消のため、洪水浸水想定区域図の作成及びハザードマップの作成・周知を進める。
 - 【中期】 河川改修を継続的に実施し、治水安全度の確保を図るとともに、水災害リスク情報空白域の解消など、ソフト対策を継続的に実施する。
 - 【中長期】 流下能力向上のために河川改修を継続的に実施する。併せて、町と連携したハザードマップの周知及び住民への水害や土砂災害リスクに対する理解促進などソフト対策による短期からの継続的な取組により、流域全体の防災意識の向上を図る。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川改修（河道掘削・護岸整備）	静岡県			
	砂防施設等の整備、森林整備・治山事業	国・静岡県 西伊豆町 森林整備センター			
被害対象を減少させるための対策	土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制	静岡県 西伊豆町			
	水災害リスク情報空白域の解消（土砂災害警戒区域 LP測量による新規抽出）	静岡県			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報空白域の解消（洪水浸水想定区域図の作成・ハザードマップの作成・土砂災害警戒区域標識等の設置）	静岡県 西伊豆町			
	ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組	静岡県 西伊豆町			
	サイポスレーダーによる水位の観測情報等の提供	静岡県 西伊豆町			
	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保	静岡県 西伊豆町			

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

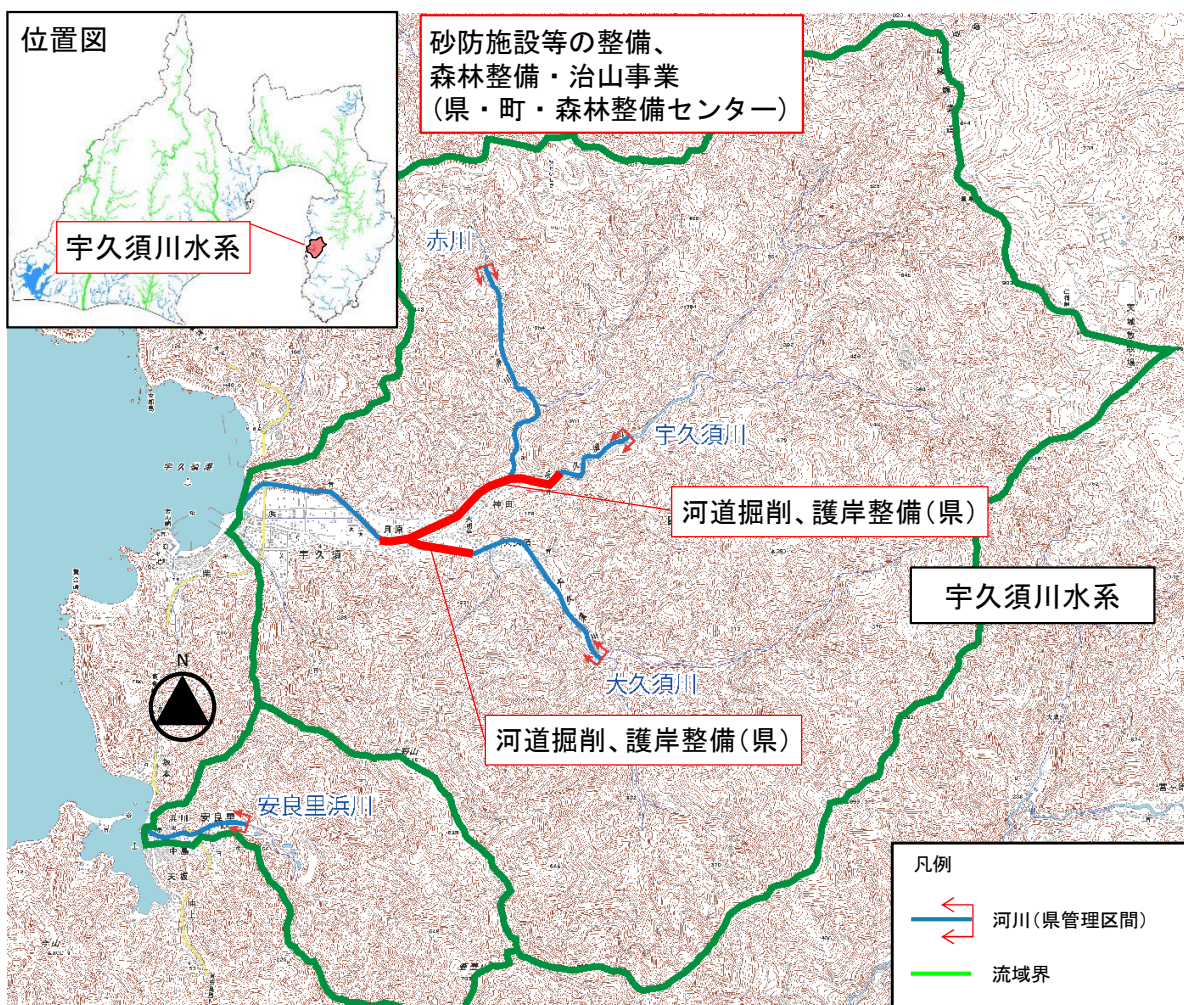
※【短期】概ね5年 【中期】概ね10年目まで 【中長期】概ね11年目以降

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

宇久須川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～洪水、津波、土石流などの災害の発生防止と軽減を図るとともに、身近で親しみやすい水辺環境を形成する流域治水対策～

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、宇久須川水系においても、事前防災対策を進める必要がある。
- 宇久須川流域は、下流部の河川沿いに住宅地が集中しており、洪水による浸水被害のリスクが高いことから、河川改修を実施する。
- これらの取組により、県管理区間においては、年超過確率 1/5 規模の降雨による洪水を安全に流下させ、浸水被害の防止又は軽減を図る。
- 加えて、あらゆる関係者が連携し、水災害リスク情報空白域の解消や各種ハザードマップの作成・周知等、ソフト対策と合わせて流域一体となって激甚化する水害に対し、被害の軽減を図る。



●氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・ 河川改修（河道掘削・護岸整備）
- ・ 砂防施設等の整備、森林整備・治山事業

等

●被害対象を減少させるための対策

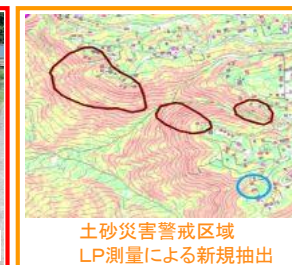
- ・ 土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制
- ・ 水災害リスク情報空白域の解消（土砂災害警戒区域 LP測量による新規抽出）

等

●被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・ 水災害リスク情報空白域の解消（洪水洪水浸水想定区域図の作成・ハザードマップの作成・土砂災害警戒区域標識等の設置）
- ・ サイボスレーダーによる水位の観測情報等の提供
- ・ ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組（出前講座、避難訓練、マイ・タイムラインの推進等）
- ・ 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保

等



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

宇久須川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ・効果】

～洪水、津波、土石流などの災害の発生の防止と軽減を図るとともに、身近で親しみやすい水辺環境を形成する流域治水対策～

● 宇久須川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、県、町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】 市街地における浸水被害の軽減のために、護岸整備などの河川改修を実施するとともに、水災害リスク情報空白域の解消のため、洪水浸水想定区域図の作成及びハザードマップの作成・周知を進める。

【中期】 河川改修を継続的に実施し、治水安全度の確保を図るとともに、水災害リスク情報空白域の解消など、ソフト対策を継続的に実施する。

【中長期】 流下能力向上のために河川改修を継続的に実施する。併せて、町と連携したハザードマップの周知及び住民への水害や土砂災害リスクに対する理解促進などソフト対策による短期からの継続的な取組により、流域全体の防災意識の向上を図る。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川改修（河道掘削・護岸整備）	静岡県			
	砂防施設等の整備、森林整備・治山事業	静岡県 西伊豆町 森林整備センター			
被害対象を減少させるための対策	土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制	静岡県 西伊豆町			
	水災害リスク情報空白域の解消（土砂災害警戒区域 LP測量による新規抽出）	静岡県			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報空白域の解消（洪水浸水想定区域図の作成・ハザードマップの作成・土砂災害警戒区域標識等の設置）	静岡県 西伊豆町			
	ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組	静岡県 西伊豆町			
	サイボスレーダーによる水位の観測情報等の提供	静岡県 西伊豆町			
	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保	静岡県 西伊豆町			

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

※【短期】概ね5年 【中期】概ね10年目まで 【中長期】概ね11年目以降

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

五十鈴川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～安全で安心して暮らせ、川とのふれあいを創出する流域治水対策～

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、五十鈴川水系においても、事前防災対策を進める必要がある。
- 五十鈴川流域は、下流部の河川沿いに住宅地が集中し、洪水や津波による浸水被害のリスクが高いことから、河川改修や水門の施設修繕を実施する。
- これらの取組により、年超過確率1/5規模の降雨による洪水を安全に流下させることに加え、想定される津波からの被害の防止又は軽減を図る。
- 加えて、あらゆる関係者が連携し、水災害リスク情報空白域の解消や各種ハザードマップの作成・周知等、ソフト対策と合わせて流域一体となって激甚化する水害や想定される津波に対し、被害の軽減を図る。



●氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・ 河川改修（河道掘削等）、水門施設修繕
- ・ 砂防施設等の整備、森林整備・治山事業

等

●被害対象を減少させるための対策

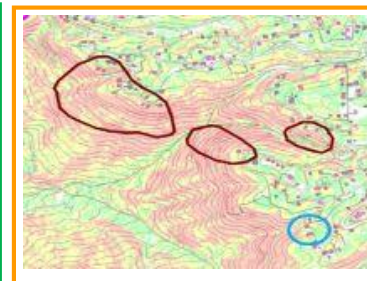
- ・ 土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制
- ・ 水災害リスク情報空白域の解消（土砂災害警戒区域 LP測量による新規抽出）

等

●被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・ 水災害リスク情報空白域の解消（洪水浸水想定区域図の作成・ハザードマップの作成・土砂災害警戒区域標識等の設置）
- ・ ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組（出前講座、避難訓練、マイ・タイムラインの推進等）
- ・ 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保

等



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

五十鈴川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ・効果】

～安全で安心して暮らせ、川とのふれあいを創出する流域治水対策～

● 五十鈴川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、県、町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】 市街地における津波浸水被害の軽減のために、水門の施設修繕に着手するとともに、水災害リスク情報空白域の解消のため洪水浸水想定区域図の作成及びハザードマップの作成・周知を進める。

【中期】 河川改修を実施し、治水安全度の確保を図るとともに、水災害リスク情報空白域の解消など、ソフト対策を継続的に実施する。

【中長期】 流下能力向上のための河川改修を継続的に実施する。併せて、町と連携したハザードマップの周知及び住民への水害や土砂災害リスクに対する理解促進などソフト対策による短期からの継続的な取組により、流域全体の防災意識の向上を図る。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川改修、水門施設修繕	静岡県	→		
	砂防施設等の整備、森林整備・治山事業	静岡県 南伊豆町 森林整備センター	→		
被害対象を減少させるための対策	土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制	静岡県 南伊豆町	→		
	水災害リスク情報空白域の解消（土砂災害警戒区域 新規抽出）	静岡県	→		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報空白域の解消（洪水浸水想定区域図の作成・ハザードマップの作成・土砂災害警戒区域標識等の設置）	静岡県 南伊豆町	→		
	ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組、	静岡県 南伊豆町	→		
	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保	静岡県 南伊豆町	→		

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

※【短期】概ね5年 【中期】概ね10年目まで 【中長期】概ね11年目以降

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

殿田川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～安全で安心して暮らせ、川とのふれあいを創出する流域治水対策～

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、殿田川水系においても、事前防災対策を進める必要がある。
- 殿田川流域は、下流部の河川沿いに住宅地が集中し、洪水や津波による浸水被害のリスクが高いことから、河川改修や水門の施設修繕を実施する。
- これらの取組により、県管理区間においては、年超過確率 1/5 規模の降雨による洪水を安全に流下させることに加え、想定される津波からの被害の防止又は軽減を図る。
- 加えて、あらゆる関係者が連携し、水災害リスク情報空白域の解消や、ハザードマップの周知及び住民の水害リスクに対する理解促進の取組、ハザードマップの作成・周知等、ソフト対策と合わせて流域一体となって激甚化する水害や想定される津波に対し、被害軽減を図る。



● 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・ 河川改修（河道掘削等）、水門施設修繕
- ・ 砂防施設等の整備、森林整備・治山事業

等

● 被害対象を減少させるための対策

- ・ 土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制
- ・ 水災害リスク情報空白域の解消（土砂災害警戒区域 LP測量による新規抽出）

等

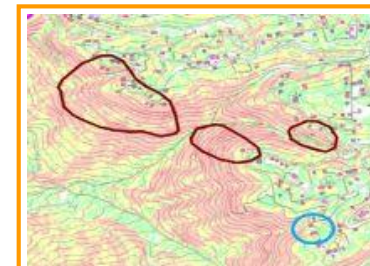
● 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・ 水災害リスク情報空白域の解消（洪水浸水想定区域図の作成・ハザードマップの作成・土砂災害警戒区域標識等の設置）
- ・ ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組（出前講座、避難訓練、マイ・タイムラインの推進等）
- ・ 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保

等



出前講座



土砂災害警戒区域
LP測量による新規抽出

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

殿田川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ・効果】

～安全で安心して暮らせ、川とのふれあいを創出する流域治水対策～

- 殿田川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、県、町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
- 【短期】 市街地における津波浸水被害の軽減のために、水門の施設修繕に着手するとともに、水災害リスク情報空白域の解消のため、洪水浸水想定区域図の作成及びハザードマップの作成・周知を進める。
- 【中期】 河川改修を継続的に実施し、治水安全度の確保を図るとともに、水災害リスク情報空白域の解消など、ソフト対策を継続的に実施する。
- 【中長期】 流下能力向上のために河川改修を継続的に実施する。併せて、町と連携したハザードマップの周知及び住民への水害や土砂災害リスクに対する理解促進などソフト対策による短期からの継続的な取組により、流域全体の防災意識の向上を図っていく。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川改修（河道掘削等） 水門の施設修繕（施設修繕）	静岡県			
	砂防施設等の整備、森林整備・治山事業	静岡県 南伊豆町 森林整備センター			
被害対象を減少させるための対策	土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制	静岡県 南伊豆町			
	水災害リスク情報空白域の解消（土砂災害警戒区域 新規抽出）	静岡県			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報空白域の解消（洪水浸水想定区域図の作成・ハザードマップの作成・土砂災害警戒区域標識等の設置）	静岡県 南伊豆町	洪水浸水想定区域図の作成		
	ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組、	静岡県 南伊豆町			
	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保	静岡県 南伊豆町			

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

※【短期】概ね5年 【中期】概ね10年目まで 【中長期】概ね11年目以降

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。